２６．３．３
杉並区広報課

石井桃子さんが始めた小さな図書室
「かつら文庫」がリニューアルオープンしました。

３日、児童文学作家の故・石井桃子さんが自宅を開放して始めた家庭文庫「かつら文庫」（荻窪３－３７－１１）のリニューアルオープンにあわせ、内覧会が行われました。隣接する建物を改修し、資料室や展示室が新しく備わった館内は多くの見学者でにぎわいました。石井さんの書斎なども特別公開され、英語の原書や辞書に囲まれた仕事机が、当時のままに再現されています。

かつら文庫は、児童文学作家・翻訳家・編集者として活躍した石井桃子さん（1907～2008）が、地域の子どもたちが自由にくつろいで本が読めるようにと願い、1958 年に荻窪の自宅を開放して始めた家庭文庫です。約 3 千冊の児童図書の貸し出しや読み聞かせなどを行っていて、現在は、公益財団法人東京子ども図書館が運営を引き継いでいます。

今回、同じ敷地内の隣接する建物を改修し、親交が深かった児童文学者渡辺茂男氏の蔵書や自筆原稿などを紹介する展示室、全国の 160 以上の家庭文庫と読み聞かせグループなどの資料を収集した資料室、日本の児童図書賞受賞作を閲覧できる書庫などを設けました。

また、内覧会では館内の見学ツアーも行われ、石井桃子さんの書斎や居室も特別に公開されました。天井までの書棚には原書や資料がぎっしりと詰まり、使い込まれた仕事机には筆記具や辞書が置かれています。訳の見直しを鉛筆で書き込んだ跡のある本や調度品など、実際に石井さんが使われていたものが並び、ついさっきまでそこに座っていらしたような雰囲気です。こうした書斎や資料室などは、事前申込で見学・利用することができます。これまでの子どもを対象とした文庫活動に加えて、大人も楽しめる新たな交流の場となりました。

東京子ども図書館の松岡享子理事長は、「同じ本でも、家庭の延長のような雰囲気で読むと、大きな図書館とはまた違った発見があるかもしれません。家庭文庫は、子どもたちがしたいようにできる場所。読ませられるのではなく、子どもたちが本と自立した出会いをする場所であってほしいです。ご近所の方をはじめ、たくさんの方に訪れていただきたい。」と話しています。

かつら文庫（３/１リニューアルオープン）
◆子ども対象の開庫日　第１～４土曜日　午後２時～午後５時
◆＜事前申込制＞おとなへの公開日　原則、火・木曜日　午後１時～午後４時
（問い合わせ・申し込み先）
公益財団法人東京子ども図書館　電話３５６５－７７１１